

2019014

プロジェクト名 佐渡島の水辺環境改善プロジェクト

プロジェクトの概要

「佐渡金銀山」で世界遺産登録を目指す新潟県佐渡島は、離島特有の孤立性・隔絶性・遠隔性ゆえに、未だ手つかずの自然環境や島特有の住民生活等が島内各地に残されており、国内外での知名度向上を図るためには改善の余地が残されている。本プロジェクトでは、佐渡島の資源を捉え直すことで、今日まで継承されている離島特有の文化的資源を発掘・活用し、島内の賑わい創出を図るとともに、佐渡島の魅力を国内外に周知・発信することを目的とする。

プロジェクトの結果・成果

本プロジェクトでは、佐渡島の賑わい創出に向けた島特有の資源発掘・活用のための取り組みとして、①相川地区達者海水浴場における竹の日除け施設の製作（2019年7月5日～7月15日）、②佐渡島沿岸部および加茂湖における舟小屋の実態調査（2019年8月8日～26日、11月25日～29日）、③赤泊地区における「赤泊港まつり」来場者の満足度調査（2019年7月29日～8月5日）の3つを実施した。

①では、竹を建築資材とした日除け施設を地域住民との連携により海浜に設置し、約1ヶ月半の間、海水浴客等の休憩場所として利用され、TeNY テレビ新潟（2019年7月17日）や佐渡テレビ（2019年7月19日）、新潟日報（2019年7月19日、9月7日）等のメディアにおいて日本大学の名前入りで報道された。また、竣工式には佐渡市長や新潟県議会議員の方々が参列した。②では、舟小屋の分布状況や建築特性、維持管理実態等を調査した。佐渡島の255軒の舟小屋は、漁業の形態や周辺環境等の地域性を反映した建築形態を有し、漁村特有の水辺景観を形成する地域資源としての価値を見出した。今後は、現代のニーズに応じた舟小屋のリノベーションや内部空間の活用方法を検討したい。①・②は8月に佐渡島で活動成果発表を行った（別途記事参照）。③では、郷土芸能や伝統的なイベントが毎年多数行われる「赤泊港まつり」の来場者に対して、満足度のアンケート調査を実施した。その結果、祭りに対する満足度は概ね高い傾向を示した一方、今後の祭りの衰退や存続の有無に関する懸念の声も窺えた。

今後は、水辺の賑わい創出に向けた取り組みを佐渡島全域に発展させていくことで、佐渡島の新たな価値創造を図り、文化的資質の宝庫としての佐渡島を創造したい。

活動写真

